

都市再生整備計画

ひがしだちく だい き
東田地区(第2期)

ふくおか きたきゅうしゅう し
福岡県 北九州市

令和7年10月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	□
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	福岡県	市町村名	北九州市	地区名	東田地区(第2期)	面積	137 ha
計画期間	令和 8 年度 ~ 令和 12 年度	交付期間	令和 8 年度 ~ 令和 12 年度				

<p>目標</p> <p>大目標 特徴ある多様な施設群を活かして広域から人呼び込み、学び、遊び、憩いが可能な公共空間を創出し滞在価値を高めるまちづくり</p> <p>目標1 文化施設群と商業施設をつなぐ回遊軸と回遊核の形成</p> <p>目標2 多様な活動を誘発する場の創出</p> <p>目標3 来訪者の思い出となるような公共空間の魅力づくり</p>
<p>目標設定の根拠</p> <p>都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針)</p> <p>文化・観光施設等が集積する東田地区では、2022年に市立科学館、大型商業施設がオープン。</p> <p>2023年には、市立自然史・歴史博物館がリニューアルした。これを機に官民が連携し公共空間の魅力向上を図るとともに、居心地よく歩きたくなる環境を整備し、観光交流拠点の中核に相応しい魅力ある都市空間の形成を推進する。</p> <p>○ 居心地がよく歩きたくなる空間づくり</p> <p>○ 滞在時間が増加するような空間の創出</p> <p>○ 魅力あるゲート空間の形成</p>
<p>【まちづくりの経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治34年の官営八幡製鉄所(現日本製鉄株)の操業後、関連工場などの立地を伴って我が国の近代産業を支えた北九州地域の「工業都市」の中核となる。 ・産業構造転換の影響にて製鉄所の遊休地にアミューズメント施設スペースワールドが平成2年に開業。 ・科学・歴史・産業・自然・環境に関する博物館群を整備する「SHINE構想」が平成5年に策定され、博物館群が整備される。 ・東田地区区画整理事業によって当該地区の土地利用転換がなされ、博物館群の整備や新駅が整備される。 ・平成12年に東田地区のまちづくり推進組織である「八幡東田まちづくり連絡協議会」が設立。 ・スマートコミュニティ創造事業、水素社会実験など、先端技術のまちづくりを推進している。 ・令和4年に「(一社)八幡東田エリアマネジメント」を都市再生推進法人に指定。 ・令和7年2月に八幡東田まちづくり連絡協議会「八幡東田未来共創ビジョン」を策定。 <p>【現況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年9月策定の「北九州市立地適正化計画」にて都市機能誘導区域に指定される。 ・平成27年7月に現存する官営八幡製鉄所関連施設が世界遺産「明治日本の産業革命遺産製鉄・製鋼、造船、石炭産業」に登録される。 ・平成30年3月に改定の「都市計画マスタープラン」にて「地域拠点」「次世代産業拠点」「観光交流拠点」に位置づけられる。 ・平成30年に文化庁「地域の美術館・歴史博物館を中核としたクラスター形成事業」の採択を受け、いのちのたび博物館を中核として東田地区とその周辺地域の施設が連携し、地域の活性化やインバウンドの取り込みにつなげる事業を実施。 ・令和4年に旧スペースワールド跡地(平成29年12月閉鎖)において、民間事業者による大型商業施設が開業。また、同施設エリア内に新科学館(市)が新設。 ・令和4年8月には、スーパーシティ構想を基礎とし、新たな事業を加え、2030年頃の未来社会の先行実現を目指す「東田・未来都市プロジェクト」を始動。 ・令和5年にはいのちのたび博物館の開館20周年を記念して、常設展をリニューアルオープン。
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内外から人呼び込む「集客拠点」のポテンシャルを高めるため、集積する各施設の更なる魅力向上とともに、地区全体の魅力向上を図る必要がある。 ・文化施設群と大型商業施設とは東田大通りで分断され施設間連携が弱いことから、各施設をつなぐ居心地よく歩きたくなる公共空間の形成が必要である。 ・JRスペースワールド駅高架下、駅前広場及び博物館などは、地区や施設のゲート空間としての魅力向上を図り、民間による活用が望まれる。 ・東田地区周辺地域住民を中心に、公園など公共空間の利用者を増やす必要がある。 ・八幡東田未来共創ビジョンを実現するため、民がアクションを起こせる場の創出が必要である。
<p>将来ビジョン(中長期)</p> <p>○「北九州市基本構想・基本計画」(令和6年3月策定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史ある製鉄関連などの企業や先端産業が集積する東田地区と商店街などの市街地が連携して新たなビジネスの創出に挑戦し、ともに発展するまちづくり ・夜景の名所である皿倉山や東田地区の各種施設、河内地区の自然など、高い集客力を持つこれらの地域資源の連携を図るとともに、伝統文化に根ざした祭りや食の魅力の活用、宿泊機能の強化などにより、観光などで訪れた人たちが循環し、滞在するまちづくり <p>○「北九州市都市計画マスタープラン」(平成15年11月策定、平成30年3月改訂)</p> <p>【地域拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の環境首都に相応しい先進モデル地区としてのまちづくりを進める <p>【観光交流拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新旧の産業が融合し、博物館等観光資源を生かした、多くの人が楽しみ、学ぶことができるまちづくりを進める ・観光資源や教育・文化施設などの質を高め、ビジターズインダストリー(集客産業)の中核として多くの人が訪れるまちをつくる <p>○「まちづくりビジョン2050」(令和4年3月策定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちのビジョン 未来スタイルのショーケース 先端技術の未来空間で、見る、感じる、新たな感動体験ができるまち ・まちづくりの方針 1 広場・公園を核としたシンボリック空間 2「まちごとアート」など、遊び心あふれる場 3 実証フィールドの提供、実装に向けたサポート等、チャレンジする企業のバックアップ環境 4 先端技術のショーケース・ラボ 5 広域から集客し、市内に送り出す集客ポンプ 6 拠点性の高いステーション

都市構造再編集集中支援事業の計画

都市機能配置の考え方

- ・本市は、「都市計画マスタープラン」において、相対的に人口や産業の密度や買い物の利便性が高く、都市基盤や公共施設などが充実する公共交通の利便性の高い区域を「街なか」(＝居住誘導区域)とし、そのうち本市の中核として高次の都市機能の集積・維持・向上を図る地域を「地域拠点」と位置づけている。
- ・「立地適正化計画」では、本市の人口が減少基調にあることから、既に都市機能や人口が集積している拠点やその周辺の交通利便性の高い既成市街地においてその集積の維持向上を進め、集約型の都市構造の形成を図ることとし、都市計画マスタープランに定める地域拠点を都市機能誘導区域に設定している。
- ・都市機能誘導区域では、高次の都市機能を誘導し、商業施設等不特定多数の人が利用する大規模集客施設の立地誘導を図る。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
東田地区の観光客数	人／年	東田地区における観光客数	【目標2.3】活動を誘発する場の創出、公共空間の魅力づくり	1,004,000	R5年度	1,500,000	R12年度
歩行者通行量	h／人	東田地区の主要地点における歩行者通行量	【目標1.3】回遊軸・回遊核の形成、公共空間の魅力づくり	5,707	R4年度	6,800	R12年度
東田地区のイベント満足度	%	東田地区の公共空間におけるイベント出展者の満足度	【目標2.3】活動を誘発する場の創出、公共空間の魅力づくり	56	R5年度	80	R12年度

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【居心地がよく歩きたくなる公共空間づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 東田大通り公園の魅力向上(潤いのある都市緑地の創出と、歩いて巡りたくなる回遊核となる文化ゾーンと商業ゾーンを繋ぐ公共空間の創出) エリア全体の回遊性向上(来訪者に分かりやすく、歩いて巡りたくなるサインを整備) 地区内の回遊を促す歩行者中心の公共空間整備 	<ul style="list-style-type: none"> ■【基幹事業/公園】東田大通り公園整備事業 ■【基幹事業/地域生活基盤施設】ミュージアムパーク創造事業関連サイン整備事業 ■【基幹事業/高質空間形成施設】いのちのたび博物館周辺公共空間再編事業 □【提案事業】事業効果分析業務 □【提案事業】賑わい空間創出実証実験
<p>【滞在時間が増加するような空間の創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> 東田大通り公園に子どもが楽しく遊ぶことができる遊具の設置 多様なアクティビティを誘発する広場の整備 憩い、賑わう滞在空間の創出、多様な過ごし方ができる空間整備 	<ul style="list-style-type: none"> ■【基幹事業/公園】東田大通り公園整備事業 ■【基幹事業/高質空間形成施設】いのちのたび博物館周辺公共空間再編事業 □【提案事業】事業効果分析業務 □【提案事業】賑わい空間創出実証実験 ○【関連事業】八幡東田エリアマネジメント
<p>【魅力あるゲート空間の形成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化施設等を訪れるファミリーなど来訪者をワクワクさせる空間の創出 駅前ゲート空間とまちの繋がり強化 	<ul style="list-style-type: none"> ■【基幹事業/高質空間形成施設】いのちのたび博物館周辺公共空間再編事業 ■【基幹事業/高質空間形成施設】スペースワールド駅周辺EV改修事業 □【提案事業】事業効果分析業務 ○【関連事業】八幡東田エリアマネジメント
<p>その他</p>	
<p>【北九州市立地適正化計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 北九州市立地適正化計画において、東田地区は都市機能誘導区域に設定され、新旧の産業が融合し、博物館等観光資源を生かした多くの人が楽しみ、学ぶことができるまちづくりを目指している。 <p>【関連事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 八幡東田エリアマネジメント(都市再生推進法人)による、東田大通り公園や駅前広場などにおける公共空間の利活用 <p>【八幡東田未来共創ビジョンの実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 八幡東田未来共創ビジョンに掲げた公共空間における利活用のアクションの実施 <p>基本理念:未来を創る 世界を変える</p> <p>基本コンセプトと目指すまちの姿:ヤワタ未来共創所</p> <p>基本コンセプト:革命の遺伝子を継承し、持続可能な未来づくりに向けて進化し続ける共創プラットフォーム</p> <p>目指すまちの姿:「創るまち」、「境界の無い」まち、「先駆ける」まち</p> <p>重点戦略とアクション:「志民の輪づくり」、「共創の場づくり」、「変革への挑戦」、「活動の土台づくり」</p>	

東田地区(第2期)(福岡県北九州市) 整備方針概要図(都市構造再編集集中支援事業)

目標	大目標 特徴ある多様な施設群を活かして広域から人を呼び込み、学び、遊び、憩いが可能な公共空間を創出し滞在価値を高めるまちづくり	代表的な指標	東田の観光客数 (人/年)	1,004,000 (R5年度)	→	1,500,000 (R12年度)
	目標1 文化施設群と商業施設をつなぐ回遊軸と回遊核の形成		東田地区の主要地点における歩行者通行量 (h/人)	5,707 (R4年度)	→	6,800 (R12年度)
	目標2 多様な活動を誘発する場の創出		東田地区の公共空間におけるイベント出展者の満足度 (%)	56 (R5年度)	→	80 (R12年度)
	目標3 来訪客の思い出となるような公共空間の魅力づくり					

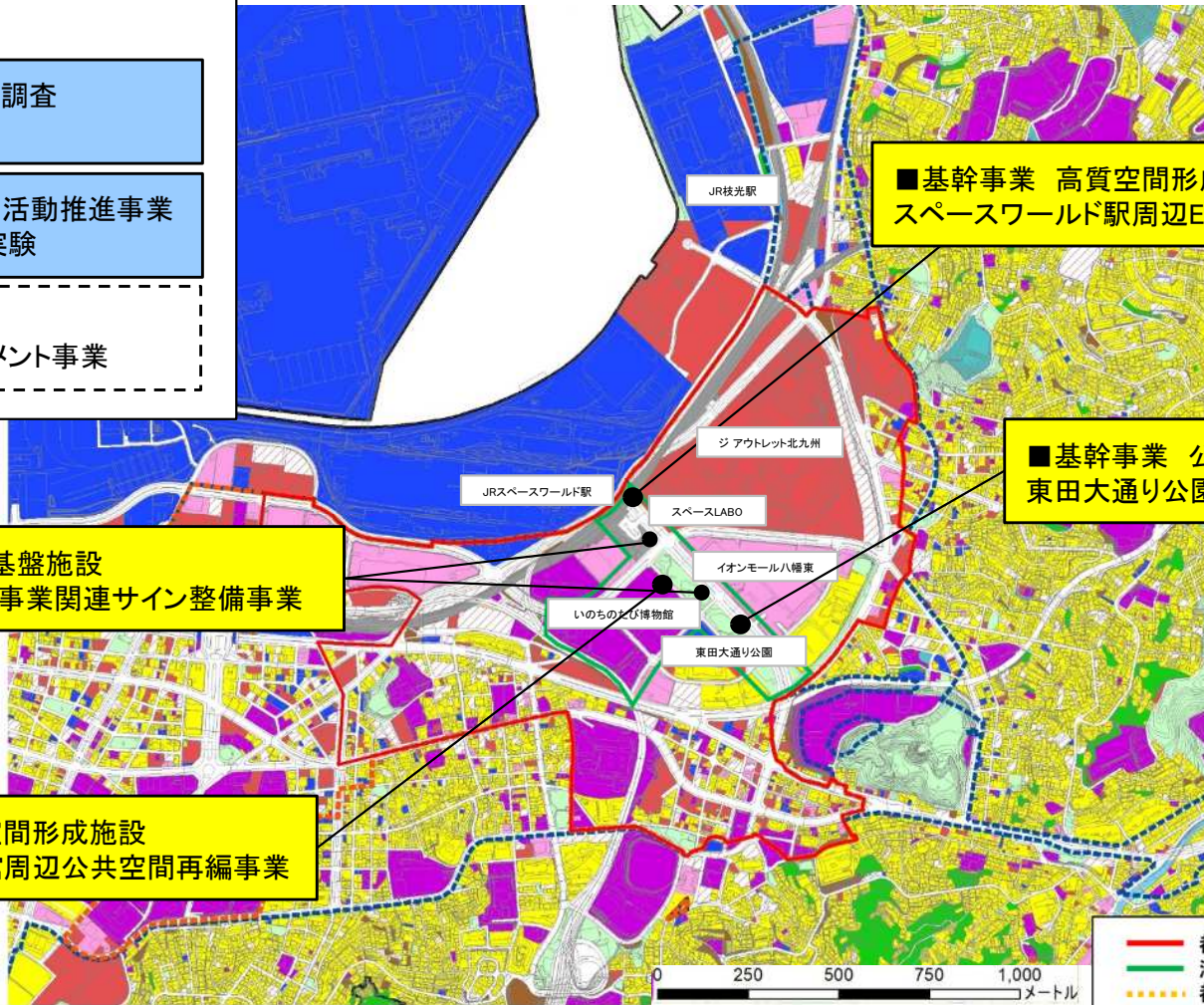
【地区名】東田地区 【区域面積】137ha

地区全体を対象とする事業

提案事業 事業活用調査
事業効果分析業務

提案事業 まちづくり活動推進事業
賑わい空間創出実証実験

関連事業
八幡東田エリアマネジメント事業



■ 基幹事業 高質空間形成施設
スペースワールド駅周辺EV改修事業

■ 基幹事業 公園
東田大通り公園整備事業

■ 基幹事業 地域生活基盤施設
ミュージアムパーク創造事業関連サイン整備事業

■ 基幹事業 高質空間形成施設
いのちのたび博物館周辺公共空間再編事業

- 土地利用用途
- 田
 - 畑
 - 山林
 - 水面
 - その他の自然地1
 - その他の自然地2
 - 住宅用地
 - 商業用地(小売業)
 - 商業用地(その他)
 - 工業用地
 - 公益施設用地
 - 道路用地
 - 交通施設用地
 - 公共空地1
 - 公共空地2
 - その他の公的施設用地
 - その他の空地
 - 未利用宅地
 - 農林漁業施設用地

- 都市再生整備計画区域
- 滞在快適性等向上区域
- 都市機能誘導区域
- 居住誘導区域

- 凡例
- 基幹事業
 - 提案事業
 - 関連事業

